

思い込みとは恐ろしいものです。私たちは思い込みで相手を判断してしまうところがあります。礼拝で視聴した動画で、電線に沢山の小鳥が止まっています。小鳥たちだけの時には、たがいにお互いを見て反目し合っていました。近くに少し大きな別の鳥がくると、反目し合っていた小鳥たちが、一緒に別の鳥を批判するようになっていきました。

このようにたがいに反目し合っている者同士でも、共通の新しい問題を見る時に一致して対抗するようになる事があります。ユダヤ人社会の中でお互いに対立がありましたが、イエスさまが来られた時、彼らが待ち望んだ姿と違っていたので、皆で協力してイエスさまを迫害しました。救い主の姿を思い違っていたからです。私たちの中に、このような思い違いがないでしょうか？

日本語のことわざで目からうろこという言葉がありますが、これは聖書のからできた言葉です。一般的には「物事が急にわかるようになる」という意味でつかわれますが、本来の意味は少し違います。「サウロ」の人生そのものが「うろこ」だったということ。つまり「覆われていた」ということです。

クリスチャンは当時、生きたまま燃やされ、たいまつにされるような、むごい迫害をうけていました。そして、サウロは彼らを迫害する、その中心にいた人物でした。彼にもやっていることの良心の呵責はあったと思われまふ。しかしそれを律することができませんでした。自分の考えが正しいと思い、神様の本当の考え、本当の正しいことが見えていない状態。心に覆いがかけられている状態。まさに目にうろこがついている状態でした。

ところが、アナニヤという弟子に神様はあらわれ、そんなサウロの元に行き、彼を癒しなさい、といわれました。そして「彼は、わたしの選びの器です。」といわれました。ついこの間まで、クリスチャンを中心となって迫害していたサウロでしたから、アナニヤも葛藤がありました。(13.14 節)

思い込みによって私たちの行動は大きく2種類に分けてみる事ができます。

- ・悪いとわかっているが自分のルールのために人を傷つけてしまう人。
 - ・正しいことをやらなければと努力はするが本来しなければならぬことができにくくなってしまっている人。
- これはどちらも、目にうろこがついている状態です。自分が正しいという思いは私たちの目にうろこをつけ、覆いをかけてしまいます。今自分たちにうろこはついていないでしょうか？

■ ルール

本来、ルールというものは、人の為にある愛に基づいたものですが、私たちは、自分を守るために、人を裁くためにルールを使っています。それは、私たちの心に悪の思いが存在しているからです。しかし私たちの心には悪の思いしかないのでしょうか。そうではありません。良心というものが与えられています。

私たちは裁く心ではなく、愛を持って生きて行かなければなりません。今、もう一度自分の生きる道が正しいか考えていきましょう。

■ ダマスコの道

サウロはダマスコへの途上で天からの光に照らされ地に倒れました。ダマスコは「まっすぐ」と言われる街路でした。そこで「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」というイエスさまの声を聞きました。「立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」と語られました。サウロは目が見えなくされていたので、人々に手を引かれてダマスコに行き、三日間、断食して祈りました。サウロにとってはそれが必要でした。しかしサウロの生き様を知っている私たちは、目が見えなくなるような状態にされる前に、生き方を変えなければいけません。神様は私達に対して「まっすぐに生きる」ことを望まれています。

■ うろこ

サウロは目にうろこがついていたため、クリスチャンを迫害し続けました。そんな彼に神は「なぜ彼らを迫害するのか」ではなく「なぜわたしを迫害するのか」と言われました。悪いことだとわかっていながら、神を無視し続け、誰かを傷つけることは、神様を迫害することなのです。うろこは本来、魚にあるものですが、それが人間にあることが問題なのです。うろこは、自分を守る鎧のようなものなのです。私たちは、自分を守るために、うろこという鎧を着て、人を傷つけてしまっているのです。「あの人は間違っている」と相手を裁いてしまうのは、自分が被害を受けているからではないですか？自分の防衛の為の正義は、愛ではありません。人は自分の保持しようと、自分の痛みに向けない為に正義を使うと、自分が一番したくない事をしてしまいます。サウロは「まっすぐ」に神様を見る状況に置かれました。私たちが自己防衛のために人を裁くことは、湾曲した道を歩くようなことです。愛の行動(正義)は自分を守るためではなく、相手の為にする行動なのです。

■ 生き方

私はこうやって生きる！と決めていることはありますか？そのルーツはなんのでしょうか？もし自分が傷ついたことによって生き方を決めているとしたら、自分のしたくないようなことをしている人生かもしれません。

そこで神様はまっすぐな道を歩みなさいといわれました。今、自分のルーツをもう一度探ってみましょう。自分がしようとしていることの動機は正しいでしょうか？

(箴言 16:1 ~ 9)

人は心に計画を持つ。【主】はその舌に答えを下さる。

人は自分の行いがことごとく純粋だと思う。しかし【主】は人のたましいの値うちをはかれる。

あなたのしようとするを【主】にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。

【主】はすべてのものを、ご自分の目的のために造り、悪者さえもわざわいの目のために造られた。

【主】はすべて心おごる者を忌みきらわれる。確かに、この者は罰を免れない。

恵みとまことによって、咎は贖われる。【主】を恐れることによって、人は悪を離れる。

【主】は、人の行いを喜ぶとき、その人の敵をも、その人と和らげる。

正義によって得たわずかなものは、不正によって得た多くの収穫にまさる。

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは【主】である。

パウロは神の光に照らされる中で語られたイエスさまの「なぜわたしを迫害するのか」「立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」という言葉聞き入れました。

(Iサムエル 15:22)「見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」と書かれているとおり、私たちは神の言葉を聞かなければなりません。

私たちは人から指摘されることが苦手です。しかし、私たちは何をするにしても、神様を第一にしていかなければいけません。そうすれば、神様がその歩みを確かにしてくださいませ。どんな問題が起こっても、苦しみがあっても、どんなことをしても神様は導いてくださいます。神の懲らしめをも喜んで受け取りましょう。人からの助言も宝として受け取っていきましょう。もしかしたら、神様からの導きは一番聞きたくないところから与えられるかもしれません。

今、自分を守る鎧を脱ぎ捨てて、神の声に聞き従っていきましょう。

(要約者:日名洋)

(2020年7月5日)